

問題1 子どものこころの発達について、小学校第5学年から第6学年の高学年の時期は、どのような特徴があるといえるか。以下の点に触れつつ、説明しなさい。

- ・ 9歳以降の物事や自分に関する認識の変化
- ・ 親からの自立と仲間関係
- ・ 身体的変化
- ・ 現代の社会環境における課題

問題2 下記の文章の(①)～(⑩)にあてはまる語句をそれぞれ解答欄に記入しなさい。

- (1) 情動経験のメカニズムに関する古典的理論のひとつとして「悲しいから泣くのではなく、(①)」という言葉で知られるジェームズ - (②) 説がある。ジェームズ - (②) 説は末梢における身体的・生理的变化が主観的情動経験を引き起こすという考え方であり、情動の末梢起源説とも呼ばれる。この説に対して視床が情動の中枢であるという考え方は、提唱した人物の名をとって (③) - バード説もしくは中枢起源説と呼ばれる。
- (2) 養育者からの虐待は、子どもにとっては慢性的な (④) 体験となる可能性がある。こうした体験の結果、子どもには (⑤) や愛着障がいなどが認められることがある。虐待を受けた子どもたちには、衝動性の高さなど、様々な情緒や行動上の問題が認められることが多く、それに伴って、(⑥) の問題が生じやすい。
- (3) ハーロウ (H.F. Harlow) は生後まもない数匹の (⑦) を、(⑧) で作られた代理母親と、(⑨) で作られた代理母親とで育てる実験を行った。その後、授乳の有無にかかわらず、(⑨) の代理母親と過ごす時間の方が約10倍も多かったという。
この実験から研究者は、(⑩) は単なる授乳よりも、むしろ接触による快さが要因となって形成されると指摘した。

問題3 次の(1)～(4)のうち2つを選択し、それぞれを簡潔に説明しなさい。
(選択した番号を解答欄の の中に記入すること。)

- (1) ピグマリオン効果
- (2) タイプA
- (3) ステレオタイプ
- (4) MMP I

問題4 次の(1)～(3)のうち1つを選択し、解答しなさい。

(選択した番号を解答欄の の中に記入すること。)

- (1) ストレスの概念とラザルスらによるストレスの認知的評価モデルについて述べなさい。また、ストレスと上手に付き合い、日常生活や仕事が円滑に行えるように工夫するためのストレスへの対処法(ストレス・マネジメント)の実践について4点あげて説明しなさい。
- (2) 発達障がいのある子どもを持つ家族に対する支援である、養育者のためのペアレント・トレーニングについて、このような支援が必要とされる背景に触れながらペアレント・トレーニングの目的と効果、具体的なプログラムの内容について説明しなさい。
- (3) マズロー(Maslow, A.H)が提唱した人間性心理学について説明し、欲求階層説に触れながら自己実現をどのように捉えたかを説明しなさい。